

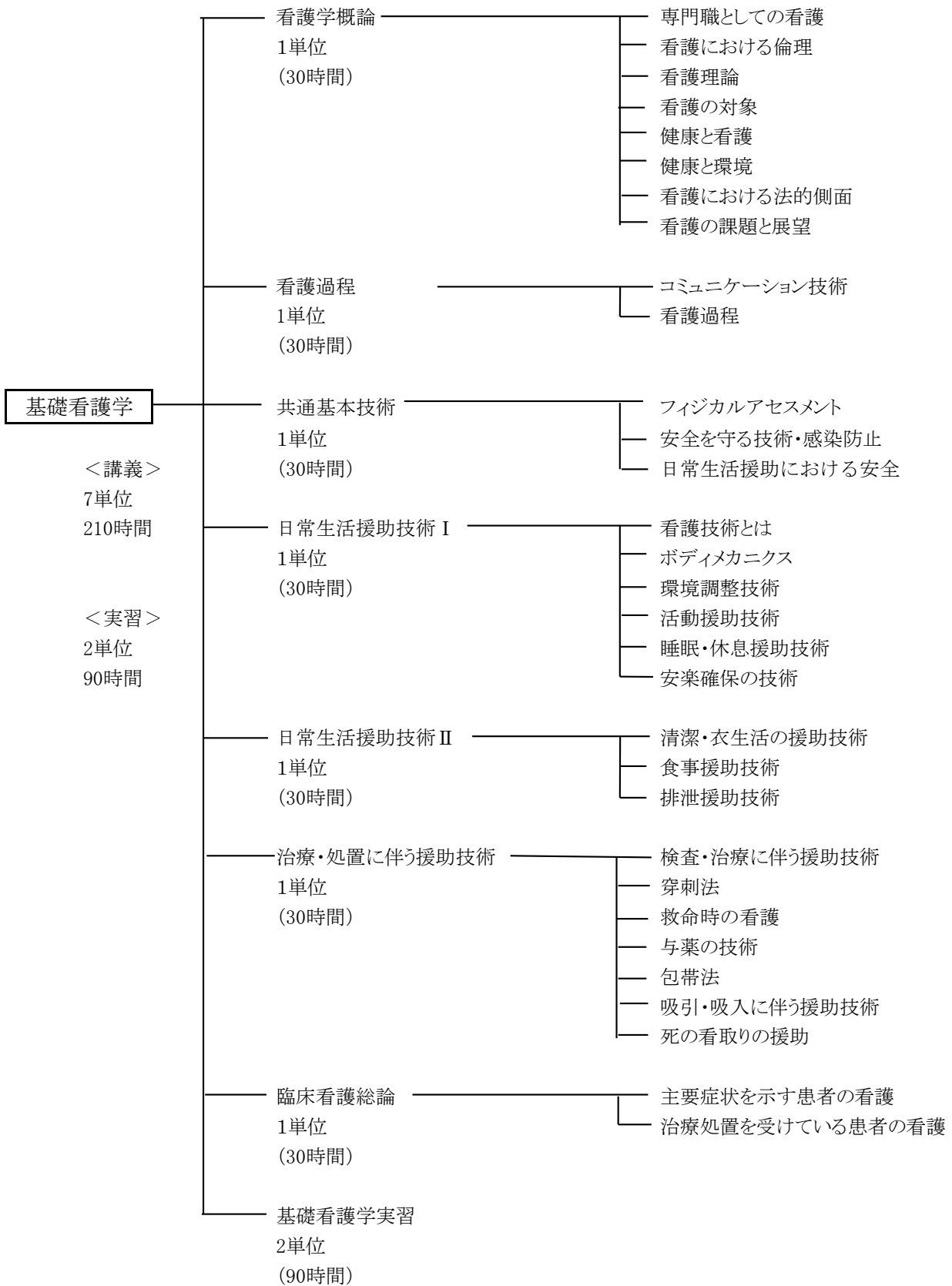
専門分野 I

基礎看護学

目 的 看護の基本となる概念を理解し、専門職業人としてさまざまな看護活動の場における看護実践に必要な基礎的能力を養う。

- 目 標
- 1 看護・人間・健康・環境の概念が理解できる。
 - 2 保健・医療・福祉チームにおける看護の位置づけと役割が理解できる。
 - 3 専門職業人としての態度を身につけ、看護実践に必要な倫理的意思決定と行動ができるための基礎知識を習得する。
 - 4 科学的根拠に基づいた看護を安全安楽に実践するために必要な基礎的知識・技術を習得する。
 - 5 個別な看護ニーズにこたえるために必要な看護過程展開の基礎的能力を習得する。

基礎看護学 構成図



授業科目	看護学概論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 4月~6月		
				時間数	30				
目的と目標	看護の基本概念としての人間・健康・環境・看護について学び、看護の位置づけと機能、役割を理解する。 1 看護の基本となる概念および看護の機能と役割が理解できる。 2 生活者としての人間を対象とした、看護実践に必要な基礎的知識を習得する。 3 専門職として備えるべき要件が理解できる。								
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員			
1 2 3	専門職としての看護	(1) 看護とその責務 (2) 看護とは (3) ケア・ケアリング (4) 実践科学としての看護 (5) 看護教育制度 (6) 専門職としての看護組織 (7) 看護の変遷と社会が求める看護 (8) 保健師助産師看護師法から看護を考える			講義 GW	専任教員 ()			
4 5	看護における倫理	(1) 看護における倫理の必要性 (2) 看護者の倫理綱領 (3) 倫理的看護実践を行うために必要なこと			講義				
6 7 8	看護理論	(1) 看護理論の意義と変遷 (2) 看護理論の分類 (3) さまざまな看護理論			講義 GW				
9 10 11	看護の対象	(1) 人間とは (2) 生活者としての人間 (3) 個人、家族、コミュニティ、地域社会 (4) 健康障害とその影響			講義 GW				
12	健康と看護	(1) 責務としての健康と看護者の役割 (2) 健康の概念 (3) ヘルスプロモーション等の考え方			講義 GW				
13	健康と環境	(1) 内的環境と外的環境 (2) 外的環境が与える内的環境への影響 (3) 環境調整と看護の役割 (4) ライフサイクルと健康			講義 GW				
14	看護における法的側面	(1) 看護実践の職業的および法的規則			講義				
15	看護の課題と展望 (1時間)	(1) 看護をめぐる制度と政策			講義				
	試験 (1時間)								
評価方法	筆記試験 100点								
教科書 参考文献	系看専門Ⅰ看護学概論 (医学書院) / 系看別巻看護倫理 (医学書院) 実践に生かす看護理論 19 (サイオ出版) / 看護の基本となるもの (日本看護協会出版会) 看護六法 2020年版 (新日本法規出版) / 看護覚え書 (現代社)								
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	看護過程	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師 ②伊藤 享子	単位数	1	時 期	1年次 4月~7月
				時間数	30		
目的と目標	<p>援助関係の成立に必要なコミュニケーション技術を学び、個別な看護ニーズに対応するため、看護の過程における思考の方法を習得する。</p> <p>1 看護における相互作用とコミュニケーションの意義が理解できる。</p> <p>2 効果的なコミュニケーションのために必要な基本的知識・技術・態度を習得する。</p> <p>3 科学的思考・問題解決的思考を基盤とした、看護の過程における思考の方法（看護過程）が理解できる。</p> <p>4 対象者の情報の整理と記録の方法が理解できる。</p>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員		
1 2	コミュニケーション技術 (合計 10 時間)	(1) 看護実践における人間関係の必要性		講義	専任教員 ()		
3		(2) 関係成立までの過程					
4		(3) 看護におけるコミュニケーション技術					
5		(4) コミュニケーションの基本的要素 ①相互作用とコミュニケーション ②効果的なコミュニケーション技術					
6		(5) 専門職者としての態度 ①接遇		講義	非常勤講師 (伊藤享子)		
7	看護過程 (合計 19 時間)	(6) 看護と人間尊重 ①援助過程とコミュニケーション ②インフォームドコンセントと看護師の役割 ③ペイシェントアドボカシーとしての活動		講義 演習	()		
8		(7) コミュニケーションの実際 ①ロールプレイング ②プロセスレコード ③リフレクション					
9		(1) 看護過程の概要		講義 演習	専任教員 ()		
10		(2) ゴードンの機能的健康パターンとは					
11		(3) NANDAの看護診断					
12		(4) 情報の収集と分析					
13		(5) 問題の明確化					
14		(6) 優先順位の決定					
15		(7) 看護計画の立案					
		(8) 実施					
	(9) 評価と計画の修正						
	試験 (1 時間)						
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	系看護専門Ⅰ基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 系看護専門Ⅱ運動器(医学書院) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針(照林社) 看護過程に沿った対症看護(学研) 看護に役立つ検査事典(照林社) NANDA-I看護診断 定義と分類(医学書院)						
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。						
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
15	安全確保の技術 試験（1時間）	（1）安全の意義と保証 ①安全とは ②安全を保証することの重要性 （2）日常生活援助技術における安全	講義 演習	専任教員 （ ）
評価方法	筆記試験 100点			
教科書 参考文献	系看専門 I 基礎看護技術 I, II（医学書院） フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院） ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）			
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。			
☆担当教員 の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③理学療法士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	日常生活援助技術 I	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 4月~7月
				時間数	30		
目的と目標	<p>安全、安楽、自立を支えるための看護実践に必要な生活行動援助技術の基本を習得する。</p> <p>1 ボディメカニクスについてその基本原理を理解し、対象者と看護者が安全かつ安楽な体位で、効果的・効率的にケアを実践する基本的方法を身につける。</p> <p>2 根拠に基づいた看護技術の必要性を理解し、環境の整備、活動・運動、休息・睡眠に関する日常生活援助が、原理・原則に基づいて安全に実践できる基礎的知識・技術・態度を習得する。</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	看護技術とは	(1) 基礎看護学の構造とクリティカルシンキング (2) 人間を対象とする専門技術とは		講義	専任教員 ()		
2	ボディメカニクス	(1) ボディメカニクスの基礎		講義 演習	専任教員 ()		
3		①ボディメカニクスから見た姿勢と動作 ②看護場面の姿勢と動作 ③体に負担のかかる姿勢と動作					
		(2) ボディメカニクスの意義 ①ボディメカニクスとは ②最小の労力で最大の効果をあげるための技術					
4	環境調整技術 (合計 11 時間)	(1) 環境の意義		講義 演習	専任教員 ()		
5		(2) 病室の環境と病床内環境					
6		(3) 環境のアセスメント					
7		(4) 病床を整える技術					
8		①ベッドメイキング					
9	②シーツ交換 ※		※技術 チェック				
10	活動援助技術 (合計 8 時間)	(1) 活動・運動の生理学的メカニズム		講義 演習	専任教員 ()		
11		①体位変化とバイタルサイン					
12		②同一体位の有害性					
13		(2) 活動・運動のアセスメント					
		①基礎代謝と活動代謝 ②日常生活に必要な動作 ③活動・運動を阻害する要因					
	(3) 活動・運動の援助の実際		※技術 チェック				
	①体位変換						
	②移乗動作						
	③搬送 (車いす・ストレッチャー)						
	(4) 安楽な体位の保持 (5) 技術到達度の確認 ※						

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
14	睡眠・休息援助技術 (1 時間)	(1) 健康と睡眠 ①休息とは ②睡眠とは ③睡眠の分類 ④睡眠障害 (2) 休息・睡眠状態のアセスメント ①睡眠を阻害する要因	講義	専任教員 ()
15 16	安楽確保の技術 (3 時間)	(1) 安楽を阻害する因子 (2) 安楽を確保する技術 ①温罨法・冷罨法 ②足浴 ③リラクゼーション法 ④安楽を阻害している因子の除去	講義 演習	専任教員 ()
	試験 (1 時間)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書 参考文献	系看専門 I 基礎看護技術 I, II (医学書院) ビジュアル臨床看護技術ガイド (照林社)			
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。			
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 6月~12月
			① ②	時間数	30		
目的と目標	<p>安全、安楽、自立を支えるための看護実践に必要な生活行動援助技術の基本を習得する。</p> <p>1 清潔、食事、排泄に関する日常生活援助が、原理・原則に基づいて安全に実践できる基礎的知識・技術・態度を習得する。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 4 5 6 7 8 9	清潔・衣生活の援助技術 (合計 17 時間)	(1) 身体の清潔のアセスメント ① 身体の清潔・衣生活のニーズ・習慣 ② 清潔状態のアセスメント ③ 清潔行動のアセスメント (2) 清拭洗浄剤と皮膚の反応 (3) 身体各部の清潔の援助方法と身体に及ぼす影響 (4) 衣生活の援助の実際 ① 臥床患者の寝衣交換 (5) 身体各部の清潔の援助の実際 ① 全身清拭 ② 洗髪 ③ 陰部洗浄 ④ 足浴 * ⑤ 口腔ケア			講義 演習	専任教員 ()	
10 11	食事援助技術 (合計 4 時間)	(1) 食事・栄養の意義 (2) 食事と栄養に関する基礎知識 ① 栄養素と食事摂取基準 ② 病院における食事 (3) 摂食・嚥下機能のアセスメント ① 食欲 ② 嚥下状況 ③ 摂食行動 (4) 食事・栄養に関する援助の実際 ① 自力摂取が困難な患者への援助			講義 演習	* 休息で実施 講義 演習 (歯科衛生学 科専任教員) 専任教員 ()	

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
12 13 14 15	排泄援助技術 (合計 8 時間)	(1) 排泄に関する基礎知識 ①尿の生成と排尿のメカニズム ②便の生成と排便のメカニズム (2) 排尿・排便のアセスメント (3) 排泄用具の特徴と選択 (4) 排尿・排便の援助の方法 ①自然な排尿・排便を促す援助方法 ②導尿 ③浣腸 (グリセリン浣腸・高圧浣腸) ④摘便 *	講義 演習 * 老年看護学実施	専任教員 ()
	試験 (1 時間)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書 参考文献	系看専門 I 基礎看護技術 II (医学書院) ビジュアル臨床看護技術ガイド (照林社)			
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。			
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	治療・処置に伴う 援助技術	担当 教員	専任教員☆	単位数	1	時 期	1年次 9月~3月			
				時間数	30					
目的と 目標	人体の構造・機能の知識を基盤に、診断・治療に伴う看護技術の基本を習得する。 1 治療・処置の目的、適用、方法、合併症を理解し、対象が安全で安楽な治療・処置に伴う援助を提供するための基本的知識・技術・態度を習得する。									
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員				
1	検査・治療に伴う援助 技術	(1) 診察・検査における看護者の役割 (2) 検査の種類と目的 (3) 治療・処置時の看護者の役割と責任 (4) 身体計測			講義	専任教員 ()				
2	穿刺法	(1) 穿刺法の種類と目的 (2) 穿刺に伴う援助			演習 講義 演習	専任教員 (基礎担当) 専任教員 ()				
3	救命時の看護 (1時間)	(1) トリアージ								
4	与薬の技術	(1) 薬物の適用別種類と吸収・排泄の機序								
5	(合計17時間)	(2) 薬物療法における看護の役割 (3) 経口及びその他の方法による与薬の技術 ①経口与薬 ②坐薬の与薬 ③その他								
6		(4) 非経口的栄養法の種類と適応								
7		①経鼻胃チューブの挿入と固定の方法								
8		②栄養剤の注入方法								
9		(5) 注射の実際								
10		①皮下注射 ②筋肉内注射								
11		③静脈内注射 ④採血								
12		⑤点滴静脈内注射 ⑥輸液ポンプ ⑦シリンジポンプ								
13	包帯法	(6) 輸血 (1) 包帯法の目的・種類・援助方法 ①巻軸包帯 ②三角巾 ③腹帯						講義 演習	専任教員 ()	
14	吸引・吸入に伴う援助	(1) 吸入の援助技術						講義	専任教員	
15	技術	①目的・適応 ②吸入の種類と方法 ③酸素吸入に伴う援助技術 (2) 吸引の援助技術 ①目的・適応 ②吸引の合併症 ③吸引の方法			演習	()				
16	死の看取りの援助 (1時間)	(1) 死後の身体的変化 (2) 死後の処置の方法と留意点 (3) 家族への看護			講義	専任教員 ()				
	試験 (1時間)									
評価方法	筆記試験 100点									
教科書 参考文献	系看専門Ⅰ基礎看護技術Ⅱ(医学書院) ビジュアル臨床看護技術ガイド(照林社) 新体系経過別成人看護学④終末期看護エンド・オブ・ライフ(メヂカルフレンド社)									
事前学習 受講要件	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。									
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。									

授業科目	臨床看護総論	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②医療機関看護師 ③医療機関看護師	単位数	1	時期	1年次 10月~2月				
				時間数	30						
目的と目標	<p>共通基本技術・生活援助技術で学んだ知識・技術をもとに、対象の状況に応じて、安全・安楽に援助ができる能力を養う。</p> <p>1 健康障害時に現れる主な症状を理解し、症状からくる苦痛の緩和と日常生活を支える看護の基本が理解できる。</p> <p>2 事例に合わせて必要な援助を選択し、援助計画の立案ができる。</p>										
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員					
1 2 3 4	主要症状を示す患者の看護 (8時間)	(1) 意識障害のある患者の看護 ① 意識障害のメカニズムと主な治療・看護			講義	専任教員 ()					
5 6 7 8 9 10 11 12 13		(2) 痛みのある患者の看護 ① 痛みのメカニズムと主な治療・看護									
14 15		(3) 循環障害をもつ患者の看護 ① 循環障害のメカニズムと主な治療・看護									
		(4) 消化吸収障害のある患者の看護 ① 消化吸収障害のメカニズムと主な治療(主に下痢・便秘)・看護									
		(5) 主要症状を示す患者への看護の実際 ①健康状態の把握 ②情報の分析 ③看護計画の立案 ④計画をもとに実施 ⑤評価・考察									
		(1) 放射線療法を必要とする患者の看護 ① 放射線療法の目的と方法 ② 放射線が人体に及ぼす影響 ③ 放射線療法を受ける患者の看護 ④ 放射線防護と看護管理						講義	非常勤講師 ()		
		(2) 化学療法を必要とする患者の看護 ① 化学療法の原理と目的 ② 化学療法の副作用 ③ 化学療法を受ける患者の看護									
		試験 (1時間)									
評価方法		筆記試験 100点									
教科書 参考文献		系看 看護学講座 臨床看護総論 (医学書院) / 系看 病理学 (医学書院) 系看専門Ⅱ呼吸器、消化器 (医学書院) 看護過程に沿った対症看護 (学研) / 系看別巻 がん看護学 (医学書院) 看護に役立つ検査事典 (照林社) 治療薬マニュアル 2020									
事前学習や 受講要件等		適宜提示したものに対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。									
☆担当教員 の実務経験	①②③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。										